第50号 2025年4月15日発行

AMCWA会報

NPO法人 アジア母子福祉協会
東京都品川区西五反田２丁目１５番７号
ジブラルタ生命五反田ビル３F-ITL
mail：tokyo@amcwa.org tel/fax：03-6424-5681

アジア母子福祉協会創立２５周年にあたって

―これからも一歩ずつ着実に―

アジア母子福祉協会理事長　寺井融

2000年３月３１日、NPO法人アジア母子福祉協会（AMCWA）は誕生した。

本年３月末で四半世紀、２５周年を迎えた。

創立に携わった一人として「よくぞ続いたものだなあ」とも、「あっという間だったな」とも思う。当時、大半の日本人にとって、ミャンマーは旧国名ビルマのほうが「ビルマの竪琴」や「スーチーさんの国」などで知られていた。

私どもは当初から「ミャンマーを知る会」を開催し、①東南アジア有数の自然と環境に恵まれた国である②日本とは歴史的に深いつながりがあり、同地

において日本陸軍が１８万６千人も亡くなっている③ミャンマーの平和と安全が保たれ、成長していくことこそが、この地域のみならず国際社会や日本の発展にも寄与すると訴えてきた。その思いは、今でも変わっていない。また、わが協会はマダカスカル支援にも取り組んできている。同国はアフリカ大陸近くにあるが、アジアとの関係も深い国であるからである。今後とも私たちは、地道に着実に活動を続けていく。ご支援、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いたします。

なお3月の震災による犠牲者、被害者の方々に会を代表してご冥福をお祈りするとともに心よりお見舞い申し上げます。

創立25周年おめでとうございます

アジア母子福祉協会前理事長　山口洋一

設立総会の日、PHP総研の会議室に集った20名の設立発起人の多士済々の顔ぶれとその熱気を今でもよく思い出します。

改めて25周年おめでとうございます。

あの日、理事長に選出された私は、「21世紀に臨み、今こそ日本はアジアにしっかりと根をおろし、アジアの国々と地に足がついた関係を構築することが、何にもまして重要となっております。」とご挨拶しました。

そして「アジア諸国の福祉向上への支援と文化交流を通じた相互理解の増進のために私どもの協会が果たすべき役割は大変大きい。NGOミャンマー母子福祉協会と連携し、まずミャンマーで地道に活動を積み重ね、ゆくゆくは東南アジアに活動の場を広げていきたい」とご挨拶しました。

残念ながらミャンマーにおいては少し時計の針が後戻りしていますが、草の根での支援の意義はますます大きく、協会としてマダガスカルとともに力強く支援と交流に取組んでいかれるよう祈念しております。

いまこそミャンマー支援を

アジア母子福祉協会常務理事　小池匠

今ミャンマーは苦境に立っている。軍事クーデター以来、欧米は資本から手を引き、それゆえ絶対貧困は25%から10年前の50パーセントに後戻りした。日本も欧米に同調し、ほとんどの企業は引き上げた。しかしこんな時だからこそだれも見向きもしなくなったミャンマーに支援をしたいと私は思う。

私はアジアの国々19ケ国に旅をしてきた。その中でこの国の人々に触れ、貧困にもかかわらずアジア一親切で優しい人々だと感じた。私がミャンマーに惹かれる理由がここにある。

教育さえ破壊されなければいつか国家は復興する。微力ながら今後もAMCWAを通じ将来を担うミャンマーのこども達、そして安い給料にもかかわらず教育に従事してくれている教員への感謝と継続的な支援を続けていきたいと思う。

最後に物事を多方面から見る大切さを教えていただいた前理事長山口洋一大使に感謝の意をここでお伝えしたい。

◎銀行口座が新しくなりました。◎

三菱UFJ銀行　麹町中央支店　普通　0235788
特定非営利活動法人アジア母子福祉協会
寄付使途を特定される場合は、マダガスカル支援は「マ」ミャンマー支援は「ミ」をお前の後に。

サマタン園奨学生よりお礼

卒業生と在校生とお二人ずつから

梁井さんのお陰で知識を身につけ、技術大学を出て、子供のころからの夢だった教師になる道がひらけました。
AMCWAには梁井さんと私たちをつないでくれて大変感謝しています。
(Tou Aung Kyawさん)

コンピュータ大でS/Wを学んで公務員になり、現在は裁判関係の電子化の仕事をしています。
ペーパーレスなどで成果がでるとうれしいです。卒業まで面倒をみてくれて大変感謝しています。引続き後輩への支援をお願いします。(Wunnaさん)

母の病気がきっかけで医者の道を選びました。病院実習が一番楽しく役に立ちます。今年大学を卒業して病院勤務実習に進むところです。
奨学金のおかげで心配なく通えることができ感謝しています。梁井さんの長寿をお祈りしています。(Sande Than Htikeさん)

種作りの専門家になるのが夢で農業大学に通っています。卒業後は種子会社に入り、ゆくゆくは会社を興したいと思っています。
梁井さんの健康と長寿をお祈りしています。AMCWAには梁井さんと私たちをつないでくれたことに感謝しています。
(Naw Wanさん)
※インタビューは震災前の2月中旬にZoomを通じておこなわれました。中央写真は梁井新一氏

25周年によせて

Pa-Dauk-Myaing 小学校
共同設立者　Ni Ni Win

アジア母子福祉協会の25周年、誠におめでとうございます。この素晴らしい到達点は、あなた方の揺るぎない献身と長年にわたり行ってこられた貢献の証です。
ミャンマーの子どもたちの教育を支援してくださるあなた方の親切と寛大さを忘れたことはありません。おかげさまで2,000人以上の小学生の通学・卒業を助けていただきました。
最初に小池さんにお会いしたとき、私は正直に言ってこれほど長期かつ一貫した支援をいただけるとは期待していませんでした。しかし、子供サポートの活動は私たちを毎年欠かさず、支援するという、信じられないほどの関わりを持ち続けていただきました。
小学校の生徒と教師はあなた方の継続的な支援に深く感謝しています。私たちの継続的なパートナーシップと、将来一緒に達成できるすべての良きことを楽しみにしています。

25周年おめでとうございます

MASINDRAY代表
Haja RAJAONSON

親愛なるAMCWA関係者の皆さん
私たち、マダガスカルのNGO Masindrayは長年皆さんと協力してきました。
AMCWAの25周年を祝福し、皆様の素晴らしい将来をお祈りできることを光栄に思っています。

私たちの支援活動は石原さん(注)がおられなければ始まりませんでしたし、支援活動に誇りを持てることにもならなかったでしょう。
ご承知のように、アンバトランピ児童園(警察官遺児施設)にとって、私たちがお手伝いしているAMCWAの寄付と贈りものは大変有益であり貴重です。
ご支援は在来樹や果樹の植樹、菜園作りそしてお菓子や文具、通学カバンなどのプレゼント、二段ベッドの更新等、大変多岐にわたります。
引き続きご支援をよろしくお願いいたします。
(注)写真の弊会元専務理事、故石原晃氏

★総会開催★　5月17日土曜日午後2時より、芝公園駅1分の友愛会館にて総会を開催し、活動報告、決算や活動計画、予算を審議するとともに、AMCWAの活動やミャンマーのゆくえ等について自由に話し合う場を設けます。会員外の方も大歓迎ですので事務局までご一報ください。

AMCWA 会報 50 号付録 P1

治安が悪化していたヤンゴン

アジア母子福祉協会
理事長
寺井　融

ミャンマーに行ってきた。コロナ禍や軍事クーデターなどがあったので、五年数カ月ぶりである。最大都市・ヤンゴンへの日本からの直行便は、中断している。そこで、バンコク経由便を利用した。ほかに、シンガポール経由で行く人もいる。

ヤンゴン空港の利用客は、前回より少なく感じる。空港周辺の警備には、国軍が出張ってきていた。しかし、市内で軍服姿を見かけることはない。空港からダウンタウンへの道路は、かつてと遜色がない自動車の通行量であった。町の光も同様で、明るい。

ミャンマーは電力供給が逼迫し、停電も計画的に実施されている国である。それでも、自家発電を完備した上、ネオンで飾ったビルやショッピングモールも増えてきている。先月にはロシアとの間で、小型原発の建設協定を結んだ。

長年、ヤンゴンで事業を展開しているA先生が「この国の経済は、よくわからないんです。国際援助がなくなり、経済制裁もされている。内戦も激化しており、インフレも起こっている。それなら当然、国内経済はガタガタだと思うんですけどね、意外と回っているんですよ」と言っていた。

以前の軍政の頃、ミャンマーには〝オモテ経済〟と大きな〝ウラ経済〟があり、麻薬ほか闇経済のウェートも高い、と言われてきた。二〇一一年、民政となって、テイン・セイン大統領が二重為替の横行をやめさせる。それがいま、昔に戻っていた。現地通貨チャットと米ドルとの交換レートが、「公定」と「実勢」で四～五倍（変動有）乖離しているとも聞く。

首都ネピドーには自動車で向かう。ヤンゴン－ネピドー間は三〇〇キロほどであり、東京・名古屋間に匹敵する。車はほとんど走っていなかった。同路線を何度か利用しているが、こんなことは初めてで「いま、国内航空貨物の扱い量が、飛躍的に伸びているんですよ」とヤンゴン在住のBさん。陸上輸送を空上輸送でカバーできるとも思えないのだが「ネピドーまではいいですけど、マンダレーまでとなると注意が必要ですからね」とも語っていた。

マンダレーは、ネピドーから、さらに北に二〇〇キロほどだ。旧王都で、ミャンマー第二の都市であり、中国の影響が強い。第一と第二の都市間で、物流の安全が保障されていないということか。

ヤンゴンに五泊、ネピドーに一泊した。

両都市にいる分には「いま、どこで戦争が起こっているの」とさえ思え、平穏な状態である。ところが「国軍が、面で抑えているところは国土の半分ぐらいかもしれませんね。いまや〝ヤンゴン政権〟と呼ぶ人もいるんですよ」と長期滞在者のC氏が教えてくれた。アウン・サン・スー・チー女史ら、いわゆる民主派勢力（旧政権）と、実効支配している軍部（現政権）、それに少数民族が多く住む武装勢力の支配下地域。いわば〝三国志〟状態なのである。

話は替わる。

ヤンゴンのレストランでミャンマービールが飲めなかった。軍との関係が深いと言われ、クーデター後、日本のキリンビールが提携を解消した飲料メーカーである。ヤンゴン市民にもボイコットされているらしい。なお、ネピドーでは、同ビールを飲むことができた。

ヤンゴンは地方からの流入者も増え、一見、活況を呈している。しかし、昔はほとんど見かけなかった浮浪者も街中で目につく。かつて夜十時を過ぎていても女性一人で安心して出歩けていた。それが、地元の友人に「夜の街の一人歩きは、気をつけて下さいね」と言われる。（この項つづく）

てらい　とおる

一九四七年生れ。民社党広報部長、産経新聞記者、大学講師を経てアジア母子福祉協会を設立。友愛労働歴史館調査研究員ほかも務めている。『裏方物語』（小社刊）、『民社育ちで、日本が好き』（展転社）、『体験と提案　とおる政治覚書』（桜町書院）ほか著書多数。

アジアの小窓

■「月刊時評」二〇二五年五月号

ミャンマー地震へ復興支援を

寺井　融

ミャンマーで三月二十八日、M（マグネチュード）七・七の大地震が起こった。震源地はミャンマー北部のマンダレー近郊だという。古都で第二の都市。旧日本軍が駐屯していたマンダレー城もある。

マンダレーヒィルに登れば整然とした市内が一望でき、雨季には水を満々と張った田園風景やイラワジ河が遠くにのぞめて、心休まる文化の香り高い城下町である。三月末のミャンマーは、もうすぐ水祭りを迎えるので、暑いが楽しい浮き浮きした季節であった筈。それが大きな揺れとともに瓦礫と埃まみれの街となっていったのだ。

地震が発生して七十二時間が生存者発見のポイントだと聞く。日本の国際緊急援助隊の派遣は四月二日になってしまった。

要因は①ミャンマーが軍事政権なので派遣に躊躇②金曜日午後の発生で、土日をはさんでいたため、判断や準備の遅れなどが考えられる。最大都市ヤンゴンとマンダレーでは約六百キロ離れており、ちょうど神戸と東京間となる。情報収集が遅れたのであろう。緊急事態への対応としてはいかがなものか。

この二月、一週間ほどミャンマーに滞在し、地元の人や在留邦人から「現政権は年内の総選挙実施を表明しているがどう思うか」と問うた。①総選挙を早く実施すべきである。日本政府はカンボジアにおいて和平を実現し、総選挙実施を支援してきた経験を生かすべきだ。アセアン各国や中印両国らと協力して現政権、民主派と呼ばれる旧政権、少数民族武装各派などもまじえて国際会議を開き、そのもとでの選挙実施を主張する「選挙推進派」②軍事クーデターは不当である。軍は兵舎に帰り、民主派に政権を戻すのが筋。だから「選挙反対派」③ミャンマー国民と国際社会が認め、全国各地で安全に選挙が実施でき、選ばれた政治指導者が国民に歓迎される政策を実行するのならよいが、それが見込めないのなら選挙を先に延ばすべきだという「選挙慎重派」の三つに分かれていた。

日本政府筋などに多かった意見は、その「慎重派」。これは結局、事態の推移をただ眺めているだけで何もしないということにほかならない。論理的には「反対派」の主張が正しいとしても、果たして現実的なのか。そういう意味では①の「推進派」の考えが有力となる。とは言え、そもそも各派が和平会議に集まるのか。

ポイントは中国の動向だ。各派に一番食い込んでいるからである。スーチー女史が大好きな地元女性は「このままでは中国の属国になってしまいます」と嘆いていた。中国が一番、権益拡大のため暗躍していると感じているからである。そのため軍政側はロシアとの協調を目指し、反軍政側は欧米からの支援を期待した。しかし、いずれの国も自国がかかえている問題に追われ、ミャンマーへの関心は希薄だったと言える。

そこに大地震が起こった。

ＮＨＫでは、英ＢＢＣが「ミャンマー国軍が少数民族支配地域を空爆している。反軍側が地震復旧のため停戦しているのに」とのニュースを流していた（後に停戦へ）。もし仮にそれが事実であったとしても「今日のミャンマーの混迷は英国の植民地政策（分割統治）にある」との指摘を忘れてはならない。日本軍も彼の地で戦い、十八万六千人の将兵を失っている。戦後賠償で、ビルマ（当時の国名）政府は過大な要求をせず、日本の復興に寄与してくれた。英日両国とも、ミャンマーとかかわりの深い国である。歴史的な重みを踏まえて、ミャンマー復興に対処してほしいと願う。

★募金のお知らせ★

ネピドーの児童養護施設サマタン園は幸い皆さん無事とのことですが建物には被害がでており寄付集めも困難の様子です。ついては皆様のご寄付をお送りすることとしました。

三菱 UFJ 銀行　麹町中央支店

普通　０２３５７８８

なお MMCWA とも連絡中です。

引き続きマダガスカルへの寄付も受付中。送金者名のあとに「マ」をつけてご指定ください。